

6月のささやまっこだより

令和4年6月1日
篠山保育園
園長 足立善一郎

うらかな春から季節が変わり、雨の多い梅雨へと入っていきます。子どもたちも季節や天候の変化に合わせて、いろんな遊びを見つけ出していきます。今までは体を動かしての戸外遊び中心でしたが、室内あそびでも盛り上がりを見せています。トランプやカードゲーム、粘土遊び、ごっこあそびと友だちとのやり取りを楽しんでいるようすがみられます。そして、そのよう



から、遊びの中にたくさんの「学び」が見えてきます。ままごとごっこの場面で、お皿に食材に見立てたカラーの積み木を盛り付けています。一人の女の子が「5個ずつ入れて」と言うともう一人の子が数えながらお皿に5個の積み木を入れて

ています。再び、それを「お父さんとお母さんと赤ちゃんの分作って」とお願いしていました。子どもたちは、遊びの中で数を数え、5個×3皿という掛け算を展開しているのです。実は、子ども達の遊びの中にはこのようなことがたくさんあるのです。縄跳びを飛びながら数を数えたり、「大きなお皿には果物を入れて、小さなお皿にはお豆を入れよう」と会話をしていたり。皿を通して物の大きさを言葉で表現できるようになっているのです。私は、「あそび」の中で子どもたち自身が“発見”や“感動”、“仲間に伝えあい”がたくさんあってほしいと願っています。そして、保育園という環境の中では職員が「あそびを大切に考えることができるプロでなければならない」と思っています。子どもたちが何気なく遊んでいる中には、保育者が意図的に準備をし



ているものがあったり、たまたま一人の子どもが発見したことをきっかけに、クラス全体の活動に発展したりと、あそびから多くのことを学ぶことができるのです。子どもたちの一言一行は、遊びの宝箱のようです。

6月から廊下の壁面にクラスごとの写真ボードを設置し、子どもたちの保育中の写真を5枚ずつ掲示することにしました。入園から卒園までに園で撮影したスナップ写真は、まとめてアルバムに納め、卒園の際に記念品としてひとりひとりにお渡しすることになっていますが、園だよりに掲載しているような“今この瞬間その時の保育”の様子を少しでも保護者の皆さんにお伝えできればと思い、月に2回程度テーマが違う保育中の写真を掲示します。あくまで活動の様子ですので、クラスの全員が映っているわけではありませので、ご了承下さい。 掲示してある写真は、スマホ等で撮られても結構ですが、家族内でお楽しみください。

注) SNS やブログ等への引用、転載は行わないようお願いします。

6月の行事予定

- 1日(水) 第1回歯科検診
- 11日(土) 園内研究会
- 13日(月) 尿検査キット配付(2歳児以上)
- 14日(火) 尿検査提出
- 16日(木) プール開き
- 22日(水) 避難訓練
- 24日(金) 誕生会
- 6日、20日…えいごであそぼう (ばら組)
- 13日、27日…えいごであそぼう (ふじ組)

6月 保育参観日程表

- 7日(火) もも組
 - 8日(水) ふじ組
 - 9日(木) ばら組
- すみれ、たんぽぽ、さくら組さんの日程は各クラスの掲示をご覧ください。

7月の行事予定

- 16日(土) おとまり会(ばら組)
- 17日(日) おとまり会(ばら組)
- 20日(水) 避難訓練
- 26日(火) 誕生会
- 4日…えいごであそぼう(ばら組)
- 11日…えいごであそぼう(ふじ組)

16日はおとまり会のため、他のクラスは午後2時迄にお迎え下さい

篠山祇園祭りのご案内とお願い

園庭にあります祇園神社の夏祭りが3年ぶりに開催されることになりました。午前中はおみこしが町内を練りまわり、夕方からは露店や演芸大会があります。

日程は、**7月23日(土)8:00~21:00**です。当日は通常通り開園していますが、終日**園庭駐車場が使用できません**。ご了承下さい。 ※お祭りの参加希望者への案内は、後日配付します。

「どんどん おおきなあれ！」

今、ばら組さんは野菜(ミニトマト、えだまめ、きゅうり)を、ふじ組さんは、「ひまわり」を育てています。ひまわりの種から芽が出てきた時の驚き、野菜の苗が日に日に伸びていくようすに感動する子どもたちです。



これからの生長の過程で、虫などの天敵が現れたり植物の生命力の



力強さに驚かされながら、そして毎日の水やりもみんなで交代しながら、頑張って育ててもらいたいと思います。



『食べ物をグチャグチャにしたり、
食べずにあそんでばかりで困っています』(1歳児：母)

【行動の意味】

「好奇心からの遊び食べと、飽きてしまったの遊び食べがあります」

食べさせることに力を注ぐのではなく、子どもがこぼしても、手づかみでも「自分で食べたい」という意欲を支えてあげることが大切です。「これは何だろう?」という、好奇心から食べ物をつかんだり、こねたりする遊び食べなら肯定的に見てあげ、少しはやらせてあげましょう。食べる気持ちがなくなり、遊びだす場合は、それが習慣化しないように注意が必要。少しでも食べさせようと、子どもが遊んでいるところに、ご飯をもって行って食べさせようとする人もいますが、食事と遊びの区別がつかなくなってしまうので、それは避けるべきです。

【対応法】

原因を見極め、飽きていたら「もう おしまい」

食べたくなくなったの遊び食べの場合、「もういらないの?」と聞いて、食事を終わりにするか子どもに判断させます。「いらない」と答えた場合、もどってきてあげないということをわからせたうえで席を立たせ、戻ってきて食べさせないようにします。これを3日も続ければ、遊び食べはしなくなります。ただし、食欲がなくでの遊び食べは、なぜ食欲がないのか考えましょう。おやつやの量が多すぎる、食事の時間に差し支えている、運動不足などが考えられるほか、食事の量が多すぎることもあります。子どもが食べられる量を加減し、食べられた時は「よく食べたね」とほめることで、食べる楽しみが生きる喜びにつながることを、つたえてあげましょう。

「0歳児から5歳児行動の意味とその対応」今井和子著

